

大別山の頂上高く あゝ感激の日の丸

市内南町出身 本間七五三之助君

頂上に達した時、大別山脈より
大平野に飛び出した時、その氣
持は筆舌につくせぬほど感激深
いものがありました。佐藤武蔵君
は去る日八百高地の激戦にて負
傷して後退したとぞ、商業め毎日
の麻原先生が負傷したとき同じ
く負傷したのでせう。僕は後か
ら聞いて驚きました。只今我等
は漢口準備の任について居りま
す。漢口にはまだ行って見ませ
ん。漢口が陥落しても、將は未だ
抗戦は止めぬでせう、勿論皇軍
も勝つて居るのめせん、僕等
等の訓練などいづのこともやら
ず、長期戦はこれからの、俺
包未だ受取つて居るための方
に御禮も出さず居る故よろしく
願ひ、受取り次第早速返事は出
すつもりだ。七月、八月の手紙
やつと先日受取つたばかり、H
としたとか、盆が近いとかと
云ふ手紙を、取り取つた秋に
讀んでゐる始末、戦争とは云へ

一日一言

野澤 武藏

過渡本紙一面に於て、平商工
會が歳末貸出し中止に決定
した事、而して吾人は商工
命運の行爲に懐かず、同日
附本欄に「歳暮貸出しは若松
部山、協力運動を起し、市商
店街繁榮のため努めて行ふべ
し」と商工會側の懸望を促し
てあつた

其の後本紙が調査の結果、商
工會が貸出しを中止した事實
無く、射撃心をそよませるやうな
大景品を貸出しは控へ、手拭
ハンカチ類を景品に出す貸出
しは一向差支へないやうに申
合せたことが判明、某幹部も
「貸出しを止めることに決定
」とはこの事だつたかも知れ

野澤 武藏

歳末貸出し中止問題は時局で
際し消費節約を旨とし、各
の通帳に基き各地の商店街に
波紋を投じ、野山、若松両市
商工會議所の如きは、これが
緩和策を陳情するなど、下を
擧げて商工業の大問題と成つ
てゐた、然るに地方に於ける
こんな大騒ぎも、中央に於て
は何等問題無く、昨九日東京
し街を歩いて見ると、大デパ
ートは勿論あらゆる宣傳方法
を講じて、歳末贈答品大貸出
しを實施し、中小商店は
佐竹通り聯合大貸出し、商
業聯合大貸出し、等々、何處
を歩いても人の眼を魅惑して
ゐる、今度の「貸出し案は勿

ない、貸出し中止の事は商
工會に對し甚だ中斷無く本欄
で陳謝の意を表すると同時に
更めて訂正す

平商工會が調査の結果、商
工會が貸出しを中止した事
實無く、射撃心をそよませるやうな
大景品を貸出しは控へ、手拭
ハンカチ類を景品に出す貸出
しは一向差支へないやうに申
合せたことが判明、某幹部も
「貸出しを止めることに決定
」とはこの事だつたかも知れ

中古各種レール鐵管 礦山用機械・機具類 二大製鐵會社特約店 海軍工廠御用達

買賣 仲介

代表社員 井尻七三郎
平市鍛冶町九番電話五二三番

御買上品は精々御安く納品致します
御拂下げ品は精々高價に買受けます

蓄膿症 快鼻湯

本劑は幾多の藥劑あると雖他藥の及ばざ
る良藥で、左の病症の方は一時も早く服
用され快癒されん事をお奨め致します
蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多加
症頭痛、肥厚性鼻炎に靈効あり
◎其他鼻骨彎曲症並に中耳炎は偉大なる神効あり

快鼻湯 水野藥局
責任製劑者 藥劑師 水野 清一
福島縣平市 平市 電話六九九番

新文具御案内

マルトモ書店入荷品
進物用
組合せ文房具

昭和拾四年度
常用日記 ポケット日記
婦人日記 學生日記
家計簿等 百數十種

昭和拾四年度
常用日記 ポケット日記
婦人日記 學生日記
家計簿等 百數十種

御婚禮御着附 パールマント ウエーブ

和洋結髪
オゾン美顔術
御染髮洗毛術
御爪

平市驛前
水野化粧院
電話(六七八)營業所
(五二五)自宅

スッポ

スッポ酒 二圓
スッポ活血錠 三圓・五圓

店賣販下縣
局藥邊野山 目丁五平

出前迅速

十一屋食堂
御二階の御利用
願ひます

平局前 電話三三三番

内臓外科 産婦人科

院長 安齋 徹
醫學士 黒澤 廣

平市田町(電話四五七番)
安齋醫院
入院隨意

夜間 門專

胃腸病科
花柳病科
性病科
泌尿器病科
皮膚科
肛門病科

院醫科腸胃村松
(番七〇一電)町南市平

樂太 各種

神社佛閣用太鼓
武徳道場用太鼓
歡送迎用音樂隊樂器(タナベ製品)
...カテログ進呈

平市六町目
佐藤太鼓樂器店
電話四八三

平病院

院長 醫學博士 鈴木 定藏
元共濟病院跡
電話六四一番

院長 鈴木 定藏
物理的療法科
内臓外科 副院長 高橋 俊幸
皮膚泌尿器科
藥劑科 部長 吉本 孝平

昭和タクシー

平驛前 電話三四〇番